

街路樹

学力向上に向けて ②1

～ 心の中にあるもの ～

「かけ算九九(4の段)」の授業を参観した時のことである。A君が、小さな声でつぶやいた。「5とびだと簡単。5、10、15、20」彼は4×5で考えずに、5×4で考えていた。その時、先生が「どうして4×5で20になったか書くこと」と指示した。これを聞いて、A君はノートに「おはじきで、2とびでやった」と書いた。彼の解決方法は、まず5とびの暗算。次はおはじき。そして、2とびで数える方法に変化していた。直後に、先生がA君のノートを見て「たし算でやってください」と短い指示をだした。私は、「既習事項を使つての問題解決」をさせたいというねらいが、この指示の背後にあると感じた。すなわちノートに書かせたいことは、「4×4で16 この16に4をたして20」又は「4+4+4+4+4=20」の方法であると考えた。

村上陽一郎氏は、『近代科学を超えて』(講談社学術文庫)の中で次のように指摘している。

「眼は、それが探し求めているもの以外はみることはできない。探し求めているものはもと心の中にあつたものでしかない。」つまり、見るときは、すでにどういふものが見えるかについての期待や予見が先行しているということであろう。そうすると、私が見ていたA君の動きは、私の探し求めている姿であつたといえる。ところで、A君にたし算でやる方法を指示した先生の眼には、どんな姿が見えていたのだろう。「どうやって説明していいかわからない」「ぱつとみたら、20という答えが浮かんでくる」「先生の言っていることがわからない」「おはじきは楽しい」といった考え方は、予見してないと何も見えないことになってしまう。

「心の中にあるもの」とは、授業観、教育観、子ども観…という「観」がつくものでないだろうか。授業は、先生のためにあるのではなく、子どものためにあるという授業観に立つだけで、見えてくるものが違ってくる。これは、生徒指導でも同じである。

日々の生活の中で子どもの何を見るのか。全体でなく一人一人を見るという点だけでも道は険しい。このような「観」を確立するには、目指す自分の姿を鮮明にえがき、強い意志で行動し続けることが必要である。その積み重ねにより「わからない」と思っている子への適切な言葉かけができ、日々の授業も充実してくると考える。

◆ 本年度の街路樹は、昨年度に引き続き、「学力向上」「授業改善・指導技術」を中心に、「学級経営」「教育センター研修」に関する情報を提供していきたいと思ひます。ご活用いただければ幸いです。◆

～ 児童生徒理解10の視点 ～

学級担任にとって児童生徒理解に基づく学級経営をすることは、学級経営の第一歩といえる。「子どもを知る」というポイントは…。

- 1 一人一人のよさを知る
発する言葉に耳を傾け、学校・校外生活の様子を理解し、子どもの目の高さで内面から理解すること。
- 2 一人一人のよさを伸ばす…気づくだけでなく伸ばす努力を
- 3 友人関係を理解する…特に、遊びを通しての児童生徒理解を
- 4 基本的な生活習慣の状況を把握する
整理整頓、保健衛生、給食などでのマナー、人の話の聞き方、忘れ物、言葉遣い、……。

授業改善・指導技術 ①

～ 発問・板書の仕方の工夫…その3 ～

◇ 課題発見過程の発問・板書 ◇

- 1 前時までの活動を想起し、本時の学習につなげる発問
「前の時間には、どのようなことを学習しましたか。」
「今日の時間は、どのようなことを学習しますか。」
- 2 前時までの活動を想起し、本時の学習につなげる板書
(例)単元の学習問題や学習方法はカードに書いておき、単元の学習の終了時まで、その教科の学習の際には黒板に掲示する。そして、学習の中で適宜振り返る。
- 3 児童生徒が自ら「不思議だなあ」「どうしてだろう」「おもしろそう」「調べてみたい」「解決できそう」などの興味関心を持てるよう、学習への出会いを演出
(課題発見過程に限らないが)
① ゆさぶりをかける発問・板書
② 長すぎずわかりやすい端的な発問・板書
③ マンネリ化せず、新鮮な発問・板書
④ 答えのわかりきったものでなく発展性のある発問・板書
⑤ 考える余裕のある発問・板書
- 4 発問や板書により生まれた、発言やつぶやきへの指導
○ 受け入れる(共感・理解) ○ 賞賛する(認める)
○ 方向付ける(価値ある課題へと導く)

学級経営のヒント ①

～ 児童生徒との出会い ～

特に入学や学級替え、担任のかわった学年のはじめは、その出会いを大切にしたい。「やさしい先生だといいな」「みんなにいいめられなければいいな」等、期待と不安でいっぱいである。学級担任として次のように考えたい。

- 1 一人一人の思いや願いをしっかりと受け止める
学習や学校生活に対することや自分の見方・考え方をどう評価してくれるのかなどの子どもたちの思いや願いをどのように受け止めるかにかかってくる。
- 2 一人一人のよさを見抜く
○ どの子ども自分のことを分かってもらいたいと願っている。
一人一人の特性をどの時期に見抜けるかということが、学級経営に大きくかかわる。
○ 名前を早く覚えて、言葉かけをすることも大切なこと。
- 3 自己と児童生徒、子ども同士の人間関係を把握する

- 5 学習習慣を把握する
学習の仕方、取り組む態度・意欲・関心を教科ごとに
- 6 遊びの仲間を把握する…どのような集団で遊ぶか
遊びは、児童生徒相互の関係理解の絶好の場である。
- 7 いじめの芽を把握する
どの学級でも「いじめ」があるという認識のもとに、乱暴な言葉遣い、遊びの輪に入れない、ちょっとした嫌がらせ、けんかなど、多くの教師の目で十分把握する必要がある。
- 8 不登校にかかわる目をもつ
どの子ども不登校になる可能性があるという認識で。
- 9 家庭教育について理解する…各家庭の教育方針や期待を
- 10 学校外活動を把握する…ボランティア、スポーツなど